

## 祈りの輪のロザリオ（5）

2020年5月22日（金）

【導入】（古屋敷シスター）

皆さん、新型コロナウイルス感染拡大の防止のために続けてきたロザリオの祈りの輪も、今日で5回目となりました。感染の第2波・第3波が起こらないよう、引き続き、聖母マリアの取り次ぎを願って祈りたいと思います。今週と来週はそれぞれ、主の昇天と聖霊降臨の主日の前に当たりますので、2回続けて、「栄えの神秘」を用いて祈りたいと思います。今日も、それぞれの場所で、祈りの輪を広げてくださるようお願いいたします。それでは、聖歌を歌って始めましょう。

【典礼聖歌集】112番「主は昇られた」1番～3番（荻神父）

主は のぼられた よろこびのさけびのうちに（繰り返し）

- 1 すべての民よ 手を打ち鳴らし 神に喜びの叫びをあげよ  
すべてを越える神 おそるべきかた 世界を治める偉大なおう
- 2 主は喜びの叫びのうちに 角笛の響きとともに のぼられた  
神をたたえて ほめ歌え わたしたちの王をほめ歌え
- 3 まことに神は 世界の王 力の限りほめ歌え  
神は諸国の民を導き、とうとい座についておられる

【福音朗読とメッセージ】（白浜司教）

マタイによる福音（マタイ28章16～20）の朗読を聞きましょう。

さて、十一人の弟子たちはガリラヤに行き、イエスが指示しておられた山に登った。

そして、イエスに会い、ひれ伏した。しかし、疑う者もいた。イエスは、近寄って来て言われた。

「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」

（メッセージ）

次の日曜日、わたしたちは、主の昇天をお祝いします。そのために、今日は、マタイ福音書から主の昇天の箇所を朗読させていただきました。この箇所で、とくに、わたしの心に響いてきたのは、十一人の弟子たちが、イエス様が指示しておられた山に登り、イエス様に会ってひれ伏しながら、「疑う者がいた」という箇所です。何度か復活されたイエス様を目撃し、そして今もイエス様を目の前にして礼拝しているのに、弟子たちの中では、「疑う心」が消えていなかったのです。わたしは、この箇所に大きな慰めを感じます。それは、わたし自身が「疑い深い」からです！

しかし、イエス様は、その疑う心を癒すかのように、弟子たちのところに自ら近寄って来られたのです。主の昇天は、ややもすればイエス様との別離に思えます。確かに、イエス様は、この地上から神の栄光の世界に移られるので、わたしたちの肉眼では見えなくなるのですが、実際には、イエス様が自ら、わたしたちのもとに近寄って来られるのです。このことは、昇天の前のイエス様のことばにはっきり示されています。「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」

主の昇天は、イエス様との別離ではなく、目には見えなくても「いつもわたしたちと共にいる」者（インマヌエル）となられて、わたしたちを父の家に導くため、イエス様がわたしたちに近づいて来られる神秘です。イエス様は、わたしたちの弱い心・疑う心をご存じの上で、それでもわたしたちに近づいて来られ、わたしたちの信仰を強めてくださいます。聖体の秘跡は、そのことの実現です。「新型コロナウイルス感染症」という大きな困難の中でも、神様の導きや助けに信頼して歩むことができるよう、聖母の取り次ぎを願って祈りましょう。

【先唱】（古屋敷シスター）

それでは、「新型コロナウイルス感染症に苦しむ世界のための祈り」をささげましょう。

【新型コロナウイルス感染症に苦しむ世界のための祈り】

いつくしみ深い神よ、  
新型コロナウイルスの感染拡大によって、  
今、大きな困難の中にある世界を 顧みてください。  
病に苦しむ人に 必要な医療が施され、  
感染の終息に向けて 取り組む すべての人、  
医療従事者、病者に寄り添う人の健康が 守られますように。  
亡くなった人が 永遠の 天国に迎え入れられ、  
尽きることのない 安らぎに 満たされますように。  
不安と混乱に直面している すべての人に、  
支援の手が 差し伸べられますように。  
希望の源である神よ、  
わたしたちが 感染拡大を 防ぐための 犠牲を惜みず、  
世界の すべての人と 助け合って、  
この危機を 乗り越えることが できるよう お導きください。  
わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

希望と慰めの よりどころである 聖マリア、  
苦難のうちにある わたしたちのために お祈りください。

(2020 年 4 月 3 日 日本カトリック司教協議会認可)

【ロザリオの祈り】 — 「栄えの神秘」 — (白浜司教)

【使徒信条】

天地の創造主、全能の父である神を信じます。  
父のひとり子、わたしたちの主イエス・キリストを信じます。  
主は聖霊によってやどり、おとめマリアから生まれ、  
ポンティオ・ピラトのもとで苦しみ受け、  
十字架につけられて死に、葬られ、陰府に下り、  
三日目に復活し、  
天に昇って、全能の父である神の右の座に着き、  
生者と死者を裁くために来られます。  
聖霊を信じ、聖なる普遍の教会、聖徒の交わり、  
罪のゆるし、からだの復活、永遠のいのちを信じます。  
アーメン。

【主の祈り】 (1 回)

天におられるわたしたちの父よ、  
み名が聖とされますように。  
み国が来ますように。  
みこころが天に行われるとおりに地にも行われますように。  
わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください。  
わたしたちの罪をおゆるしください。わたしたちも人をゆるします。  
わたしたちを誘惑におちいらせず、悪からお救いください。  
アーメン。

【アヴェ・マリアの祈り】 (3 回)

アヴェ、マリア、恵みに満ちた方、  
主はあなたとともにおられます。

あなたは女のうちに祝福され、ご胎内の御子イエスも祝福されています。  
神の母聖マリア、わたしたち罪びとのために、  
今も、死を迎える時も、お祈りください。アーメン。

【栄唱】

栄光は父と子と聖霊に。  
初めのように今もいつも世々に。アーメン。

第1の黙想 イエス、復活する(日本語：荻神父)

イエスは死に打ち勝って復活し、新しいいのちをお与えになります。  
この一連をささげて、新型コロナウイルス感染症で亡くなられた人、そしてすべての死者が、  
復活の喜びにあずかることができるよう、聖母の取り次ぎによって願いましょう。

【主の祈り】(1回)  
【アヴェ・マリアの祈り】(10回)  
【栄唱】(1回)

第2の黙想 イエス、天に上げられる(英語：久保神父)

復活されたイエスは、弟子たちの前で天に上げられ、御父の右の座にお着きになります。  
この一連をささげて、大きな困難の中にある世界の中で、わたしたちが、主の復活の証人  
として、信仰と愛をもって生きることができるよう、聖母の取り次ぎによって願いましょう。

【主の祈り】(1回)  
【アヴェ・マリアの祈り】(10回)  
【栄唱】(1回)

第3の黙想 聖霊、使徒たちにくだる(韓国語：古屋敷シスター)

主の約束のとおり、マリアとともに祈っていた使徒たちのうえに聖霊がくだります。  
この一連をささげて、わたしたちが聖霊の導きに従い、今、苦しんでいる人々に寄り添い、  
必要な助けの手を差し伸べることができるよう、聖母の取り次ぎによって願いましょう。

【主の祈り】(1回)  
【アヴェ・マリアの祈り】(10回)  
【栄唱】(1回)

第4の黙想 マリア、天の栄光に上げられる(ポルトガル語：野中神父)

神は、御子の母マリアを、からだも魂も天の栄光に上げられました。  
この一連をささげて、今、この地上で悲しむ人々が、天の国を見つめ、永遠の喜びに入る  
ことができるよう、聖母の取り次ぎによって願いましょう。

【主の祈り】(1回)  
【アヴェ・マリアの祈り】(10回)  
【栄唱】(1回)

第5の黙想 マリア、すべての人の母となる(フランス語：シルベスター助祭)

天の栄光に上げられたマリアは、キリストの救いにあずかるすべての人の母となりました。  
この一連をささげて、救いを求めるすべての人が、神の国の喜びにあずかることができるよう  
聖母の取り次ぎによって願いましょう。

【主の祈り】(1回)  
【アヴェ・マリアの祈り】(10回)  
【栄唱】(1回)

【結びに】(古屋敷シスター)

皆さん、主の復活の証人として生きることができるよう、派遣の祝福をいただきましょう。

【祝福】(白浜)

司 主は皆さんとともに。

一同 また司祭とともに。

司 全能の神、父と子と聖霊の祝福が + 皆さんの上にありますように。

一同 アーメン。

司 ロザリオの祈りを終わります。行きましょう、主の平和のうちに。

一同 神に感謝。

【カトリック聖歌集】322番「あめのきさき」1番、4番、5番 (荻神父)

1 天(あめ)のきさき 天の門 うみの星と 輝きます

アヴェ、アヴェ、アヴェ、マリア アヴェ、アヴェ、アヴェ、マリア(おりかえし)

4 病める人に 慰めを 恵みたまえ 愛のみ母

5 行く手示す あけの星 導きませ み母マリア

【聖歌の後】(古屋敷シスター)

皆さん、今日も、祈りの輪に加わっていただき、どうも有難うございました。

この祈りの輪のロザリオのネットの中継は、来週で最後になりますが、どうか、最終回まで、よろしく願います。お体にはくれぐれも、気をつけて お過ごしください。さようなら。